

落婦女夏月會集浣布曝乾○中

久慈郡○中

略○中

所稱高市自此東北二里密築里村中淨泉俗謂大井夏冷冬溫湧流成川夏暑之時遠邇鄉里酒肴齋

賽男女集會休遊飲樂○下

略○下

近江國  
三井

〔今昔物語十一〕智證大師初門徒立三井寺語第廿八

今昔智證大師比叡ノ山ノ傳トシテ、千光院ト云フ所ニナム住給ヒケル○中 我ガ門徒ヲ別ニ立  
テムト思フ心有テ、我ガ門徒ノ佛法ヲ可傳置キ所カ有ルト、所々ニ求メ行キ給フニ、近江ノ國志  
賀ノ昔シ大伴ノ皇子ノ起タリケル寺有リ○中 寺ノ邊ニ僧房有、寺ノ下ニ石筒ヲ立タル一ノ井  
アリ、一人ノ僧出來レリ、此ノ寺ノ住僧也ト名乗テ、大師ニ告テ云ク、是ノ井ハ一也ト云ヘドモ、名  
ハ三井ト云フ、大師其故ヲ問フ、僧答テ云ク、是ハ三代ノ天皇生レ給ヘル產湯水ヲ此ノ井ニ汲ミ  
タレバ、三井トハ申ス也ト○下

山陸奥國  
福井

〔鹽尻十一〕陸奥名所信夫摺石山ノ井 陸奥へまかりし人々に所々の事き、し○中 淺香山は、本  
宮と高倉との右下りのかたにあり、山の井の水は、其右の方山をへだて、侍るとなん、

〔越前國名蹟考五〕足羽郡福井庄十村

越前國  
福井

福井富久居當社莊北之故、此謂曰北莊○足羽社記 素良按するに、昔は北庄と稱す、寛永元年甲子七月十九日、宰相忠昌公御入部の砌より福井と改らる、福井はもと足羽神殿にまします所、五座の神の其一座にして、古訓はサクヰ、祝詞式などには榮井とも書きたり、然れども俗間にて訓みやすきに従ひフクヰと唱ふ、今御本城天守臺の上に福井と云名水あり、是則神名に據て名付るなるべし、此井の在所、御本丸となれるより、地名も福井と改められし事ならむ、

〔日本書紀十二〕瑞齒別天皇去來穗別天皇二年立爲恐行立爲立爲皇太

中

履同母弟也、去來穗別天皇二年立爲

恐行

立爲

立爲

皇太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太